

「第6回 くまもと戦争遺産の旅 ～隈庄飛行場、松橋空襲と軍人像をめぐる旅～」

10／6版

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 代表 高谷和生

1 はじめに ～戦後79年の諸相、めぐる旅・学ぶ旅を通して～

- 第1・2回は、歩兵十三聯隊、合志市黒石原奉安殿、菊池飛行場とミュージアムを見学
- 第3・4回は、初の天草方面で天草海軍航空隊、米国海兵隊撮影の戦後接收新発見写真 等
- 熊日新聞主催「戦後70・75年企画 くまもと戦争遺産をめぐる旅」を企画、見学
- 「学ぶ旅」のあり方、戦争遺跡の学びは、**ダークツーリズム**..
- 「ウクライナ戦争」「ガザ紛争」の現実を見て..
- 一人ひとりが戦争遺跡・遺産と向き合い「語り手」「継承者」として「平和を語り継ぐ」
- 「くまもと戦争と平和のミュージアム（仮）」設立に向けての市民活動

2 熊本の戦争遺跡・遺産

(1) 戦争遺跡とは

- 全国の戦争遺跡は「約50,000」件、指定登録は「341」件
2022年8月現在
- 熊本県内の太平洋戦争期の戦争遺跡総数は、多数の特殊地下壕を含めた「723件」
- 『くまもとの戦争遺産』内の一覧表記載、本会HP上には「249件」を精査し記載 2023年1月10日現在
- 熊本県内の指定登録文化財は国148件、県383件、市町村3,382件、国登録文化財156件の計2,382件



□第1回戦争遺産の旅 菊池市指定文化財「花房飛行場給水塔」前で

(2) 西南戦争期の指定等

- 西南戦争遺跡群（国指定、熊本市・玉東町）、明德官軍墓地（熊本市）、七本官軍墓地（熊本市）、花崗山陸軍埋葬地（熊本市）、旧輜重兵六聯隊衛兵所（熊本市）、有栖川の宮御督戦の地（玉東町）、篠原国幹戦傷の地（玉東町）、城の原官軍墓地（南関町）、肥猪町官軍墓地（南関町）、陣内官軍墓地（水保市）、下岩官軍墓地（和水町）、高瀬官軍墓地（玉名市）、田浦官軍墓地（芦北町）、峰崎官軍墓地（芦北町）の計14件 ※県全域悉皆調査は、未実施

(3) 太平洋戦争期の指定等 ※戦争遺産ガイドMAP

- 「花房飛行場給水塔」（陸軍菊池飛行場高架水槽・菊池市指定文化財）、「永山の掩体壕」（陸軍人吉秘匿飛行場木製有蓋掩体壕・球磨郡あさぎり町登録文化財建造物）の2件。また、合志市の「黒石原飛行場奉安殿」は、保存修復事業を進めており、完了後に合志市指定文化財となる予定である。 ※地域の歴史を語るうえで「重要な遺跡」との認識

(4) 熊本の「戦争の歴史」をたどる

※平和継承リーフレット『進駐軍の見た熊本』、『進駐軍の見た熊本 II』

～熊本に残された戦争の傷跡「七大特徴」～

- ①軍都熊本市の軍事施設
～熊本城から東部の大江・渡鹿地区への軍施設の移転～
- ②九州で三番目に多い陸海軍飛行場
～正規飛行場、本土決戦に向けての特攻秘匿飛行場～
- ③東京第二陸軍造兵廠荒尾製造所
～軍直営で石炭を原料とした黄色火薬の生産～
- ④三菱重工業熊本航空機製作所と学校工場・地下工場
～陸軍四式重爆撃機「飛龍」の生産～
- ⑤本土決戦に向けての天草地区砲台、震洋等の特攻艇基地と兵站基地としての人吉地区の飛行場・地下工場・地下壕群
- ⑥県内各地に残る空襲・戦災の「被害の歴史」
- ⑦朝鮮人や中国人、連合軍軍俘虜労働者、敵機捕獲搭乗員への「加害の歴史」



□第3回戦争遺産の旅 天草海軍航空隊半壊「スリップ」跡での見学様子。当日は大潮干潮時で、スリップ側面の擁壁が露出、基礎の松材や敷設コンクリートパネルが確認できた。

3 隈庄飛行場

※平和継承リーフレット『碧空に祈る 隈庄飛行場』、『平成28年熊本地震被災』

(1) 沿革と概要

- 大刀洗陸軍飛行学校隈庄分教所・同教育隊での操縦生の訓練
- 沖縄攻撃支援の為の「飛行第一百戦隊・陸軍四式重爆撃機」の駐屯基地
- 沖縄特攻への中継基地として
- 本土決戦の準備基地として

(2) 隈庄飛行場の特徴

①三船敏郎の戦時演劇写真

- 本部付け気象班員として、特攻隊員を見送り、敗戦を迎える。
- 「世界のミフネ」演劇の原点

②戦後の接収、オキュパイト写真の発見

- 米軍接収状況の解明、プライベートカラーズライドの発見

③何を未来に伝え、継承するのか

- 世界のミフネの足跡、熊本地震での戦争遺跡被災



□隈庄飛行場オキュパイト写真 □飛龍機上の第2海兵師団米兵 □三船敏郎の戦時演劇写真
カラー写真は、衣川太一氏提供、三船敏郎戦時演劇は、三船プロダクション提供

4 松橋空襲 ※平和継承リーフレット『松橋空襲

～昭和二十年の空襲と墜落米軍機～』、『空襲下の熊本』

(1) 交通インフラ攻撃「松橋・宇土・川尻空襲」

- 沖縄移駐の米陸軍第5・7航空軍による攻撃
- 本土決戦（九州上陸オリンピック作戦）に向けて、交通インフラ攻撃

(2) 残された戦争遺跡「永代橋梁」

- 九州鉄道株式会社時代の鉄道遺産・戦争遺産
- 本会による橋脚部一部調査のみ。全容調査が必要では！

(3) 何を未来に伝え、継承するのか

- 松橋空襲の実相、空襲の加害と被害
- 鉄道遺産・戦争遺産としての永代橋梁の保存と活用



□松橋空襲で全壊した松橋駅舎
夏目信弘氏提供

5 三角の陸軍暁部隊

(1) 陸軍船舶暁部隊とは

陸軍船舶部隊は、陸軍が国外で軍事作戦を行う上で必要とする

兵員、兵器、弾薬、食糧など必要な軍需物資等を海上輸送する為の部隊である。この業務は陸軍運輸部が担当しており、本部は広島市宇品にあり「陸軍船舶司令部」が全部隊を総括していた。その司令部に所属するものを船舶隊といい、「暁部隊」はその船舶隊の通称名。

三角には、昭和19年10月から海上輸送や軍需物資の管理等を司る「第十五船舶団」の司令部が際崎の蚕糸館跡に本部を設置し、野崎で余生を送っていた予備役の林少佐が隊長を勤めていた。その際に下石齒科病院看板裏側に「暁第四二二六五部隊本部」の看板が下げられた。証言では部隊船舶は、遠洋漁業用100トンの徴用漁船が中心であり物資運搬のダンベ船も配置されていた。

三角町周辺には陸軍関係の多くの物資が集積され、第十五船舶団では天草配備の独立混成二百十六旅団への物資補給及び長崎県南島原市口之津港に派遣された陸軍マルユ艇部隊である「第二潜航輸送隊」による南西諸島への物資補給が行われていた。そこで「マルユ十二号艇」が三角港で、物資積み込み中に艦載機の銃撃を受け、船体に損傷を受け作戦が中止される出来事も記録されている。

三角町では、野崎・金桁・黒崎・涼松・新地等に船舶団関連の横穴格納壕が掘削されているが、全容はまだ判明していない。

(2) 戸馳島野崎の弾薬格納壕

三角港の対岸の戸馳島野崎の旧製氷工場裏手に本壕は所在する。弾薬壕の入口は2箇所、その間隔は25.1m。1号入口前には爆風除けのコンクリート壁（高170cm、横残存200cm、厚30cm）が建った状態で現存し、2号入口前にも同様のコンクリート爆風除け障壁が前面に倒れ込む。さらにコンクリート壁前には切石で二段の石垣を組み丁寧に入口を造作している。

内部平面は井桁状で、二本の縦坑に対し横方向に四本の格納・通路壕が連結しており、奥行き30.6mを測る。格納壕は断面蒲鉾形で横2.3m、高さ2.5m、通路部は同形で横1.4m、高さ1.5mの規模である。本壕には証言では弾薬はまだ格納されておらず、第2入口側の先端掘削中で敗戦をむかえた。さらに付近には、現在消滅したが大砲が格納されていた巨大壕もあったとの証言である。また、戦後海上に廃棄された木製弾薬箱が地元に残されている。

(3) 三角町黒崎の物資壕

黒崎地区の国道添いには「みなと醤油醸造元」の本社があり、本物資壕はその道具類の保管倉庫として長く利用されていた。

戦後暫くまでは、入口に木製の大型両開き扉が設置されていたが、今は方形断面の痕跡を残

すのみである。入口は2箇所設けられ、最深部でコ字型で連結している。入口部は断面矩形で横3.0m、高さ2.5m、内部は断面蒲鉾型で横2.6m、高さ2.8mを測る。奥行き約40mで横方向に約32m延びる。収容されていた補給品は、軍隊被服、食糧の乾パンや牛缶、砂糖等である。



□三角町黒崎の物資壕 □戸馳島野崎の弾薬格納壕入口、爆風除けコンクリート壁

6 天草地区の個人慰霊「軍人像」

(1) 軍人像とは

軍人像とは、明治以降の近代戦争で亡くなった軍人を慰霊・顕彰する目的で製作・設置された像である。

戦争遺跡研究会清水啓介氏の設置形態を基にした分類では「個人慰霊軍人像・個人顕彰軍人像・集合軍人群像」の3分類がなされている。また、軍人像材質は「屋外建立では銅製・コンクリート製・石製で、屋内安置は木製」であり、個人慰霊軍人像は「父・母・兄等遺族による建立が全てで、設置場所は墓地や個人敷地内が多い」、個人顕彰軍人像は「建設会や顕彰会等団体による建立が多く、神社や寺院境内が多い」ことが確認されている。

また、古来より「武運長久を祈る神」が、近代で「武勲を立て勇敢に戦死した軍人が神格化」した「軍神像」とは区別する。先の清水啓介氏の愛知県中心とした2016年段階での調査・分類では「個人慰霊軍人像34体、個人顕彰軍人像56体、集合軍人群像12群」が確認されている。

(2) 山本家軍人像 ※本形式は仮称「栖本型・Ⅱ類」に分類か

上天草市大矢野町中柳9877

- 像名：陸軍上等兵 山本久七
- 石材：凝灰岩製か 全身に黒色コーラル状液を厚く塗布
- 装備：陸軍軍衣、三八式歩兵銃、前ごう、後ごう、背のう、飯盒、雑嚢、剣差 他
- 規格：全高：160cm、全幅50cm
- 台座高：38cm、台座幅56cm
- 戒名：不明
- 石工名：記載なし
- 銘文：故陸軍歩兵上等兵 山本久七之墓 昭和十五年八月
建立者 山本九八
- 備考：墓所整理時に他所より移築か、親族が管理



□山本家軍人像

(3) 軍人丸大明神さん

上天草市松島町合津6100-17

- 像名：軍人大明神「嶋崎憲治」像
- 石材：頁岩製。25年程前に全身灰色・縁部赤色に塗彩。現在は、慰霊用の屋外の祠内に安置され、蝟燭すすで黒色に変じる。
- 陸軍軍衣。当初は左手に軍刀を保持か。
- 全高：30cm、全幅：12cm
- 銘文：不明。家族証言では、中支派遣榮第一六四五部隊第三中隊所属、昭和一九年八月七日戦死。出征時に武運長久を願い、建立
- 建立者：嶋崎憲治郎
- 石工：姫戸町矢岳の某石工



□軍人丸大明神像

(4) 熊本県内事例と下浦石工 ※2024年10月7日現在

熊本県内個人慰霊軍人像事例では、天草市栖本町5体（山崎家・福原家・玉田家・前田家・林邊家）、同市河浦町立岩1体（本多家）、上天草市龍ヶ岳町大道1体（太田家）、倉岳町浦1体（岳本家）天草市本渡本泉1体（原田家）、天草市栢宇土町1体（岩永家）の「計10体」が確認されている。

7 まとめ ～フィールドワーク・ダークツーリズムを通して「何を学ぶのか」～

□ダークツーリズム

- 戦跡や被災地等を観光対象とした「ダークツーリズム」という視点
- 「人類の悲しみを継承し、亡くなった方を共に悼む旅」として、既に国際的に定着した概念
- 日本が近代化する過程での「ゆがみやひずみ」が如実に現れた地域であり、近現代史を多面的に学ぶことができる文化遺産
- 日本では、広島・長崎の被爆地や沖縄戦跡への、小・中・高校生の修学旅行や一般の方々の学ぶ旅行としても定着

□史実に込められた「歴史の重み」、「昭和100年」の教訓

□一人ひとりが戦争遺跡・遺産と向き合い「語り手」「継承者」として語り継ぐ

- ①戦争遺跡の調査、保存、継承・活用
- ②戦争遺跡・遺産は、貴重な歴史資料として「国民共有の財産“文化財”」
- ③庶民の戦時資料の調査と継承は「地域協働の平和学」
- ④広島「被爆体験伝承者」と長崎「平和案内人」による「非当事者による語り」での継承



□限庄飛行場の接收時オキユパイト写真
背景は益城町「飯田山」

[メモ]

令和6年(2024年)7月23日 火曜日

わたしを語る

戦跡や被災地などを観光対象とする「ダークツーリズム」が注目されています。これは約30年前に欧米で提唱された観光で、ナチスドイツによるアウシュビッツ収容所などを観光素材とし研究したことが始まりとされます。一人類の悲しみを継承し、亡くなった方を悼む旅として国際的に定着した概念です。

日本では広島・長崎の被爆地や沖縄戦跡への修学旅行のほか、一般の人が学ぶ旅として定着しています。

熊本県内では水俣市の水俣病療養施設、合志市の菊池遺囑園、荒尾市の旧三井三浦野敏・万田坑が挙げられます。いずれも日本が近代化する過程で「ゆがみやひずみ」が如実に現れた地域であり、近現代史を多面的に学ぶことができる文化遺産です。

このような視点で、2015年に戦後70年企画として

平和のバトン 未来へ

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク代表 高谷 和生

「くまもと戦争遺跡をめぐる旅」で、通信省熊本地方航空機整備員養成所跡の奉安殿を案内する筆者＝2015年5月、合志市

ダークツーリズムで案内役

行場「ミュージアムの見守り、天草市本渡方面(夏の平和展)見守り、天草海軍航空隊と軍人像の現地学習」への見学を行いました。

ダークツーリズムの趣旨を生かしながら、昨年まで4回続けたのは、私が案内役。毎回、当時を知る地の方々のお話を聞くことはもちろんのこと、参加者全員が自分の戦争体験や平和への願いを自由に語る場が設定されているからだと思います。

県民を対象とする戦争遺産の旅は全国的には珍しく、県内に残る戦争遺産を現地会です。5回目となる今年8月6日に実施予定です。この活動が戦争遺産を平和のバトンとして次世代へ継承する取り組みとなり、継続することを願っています。

2024.7.23



連絡先

くまもと戦争遺跡・文化遺産ネットワーク 代表
 一社 くまもと戦争と平和のミュージアム設立準備会 理事
 平和憲法を活かす熊本県民の会 代表幹事 高谷 和生
 Eメール takayanagi912@yahoo.co.jp
 HP URL https://www.kumamoto-senseki.net/